

多摩川水源森林隊による民有林の再生

東京都水道局 多摩川水源森林隊

はじめに

多摩川水系は、東京の約2割の水道水を供給する東京都独自の水源として重要な位置づけにあります。

東京都水道局は、安全でおいしい水をいつでもお客さまにお届けするため、水道専用ダムである小河内貯水池と広大な水道水源林を所有・管理しており、東京

で暮らす人々のための水を蓄えています(図1)。

水道水源林の歴史は100年以上にわたるものであり、当局は、水道水源林を適切に管理することによって、水源かん養機能、土砂流出防止機能、水質浄化機能のより一層の向上に努め、大切な水源地の環境を守っています。

水道水源林の範囲は、東京都最西部の奥多摩町から山梨県きたつるぐんこすげむら たばやまむら北都留郡小菅村、丹波山村、甲州市に至る、東西30.9km、南北19.5kmに広がっており、面積は約22,000ha(ヘクタール)、多摩川上流域(羽村取水堰より上流のエリア)全体の面積の約4割にあたります(図2)。

一方、水道水源林以外の多摩川上流域は、そのほとんどを民有林が占めており、手入れの行き届かない森林が多く存在します。

これは、木材価格の低迷、林業就労者の高齢化や不足等、早急な改善の見込めない社会的問題が背景にあります。手入れが行われず林内が暗くなると、森林の地表面を覆う草が育たず、土がむき出しになる人工



図1 東京の水がめ「小河内貯水池(奥多摩湖)」

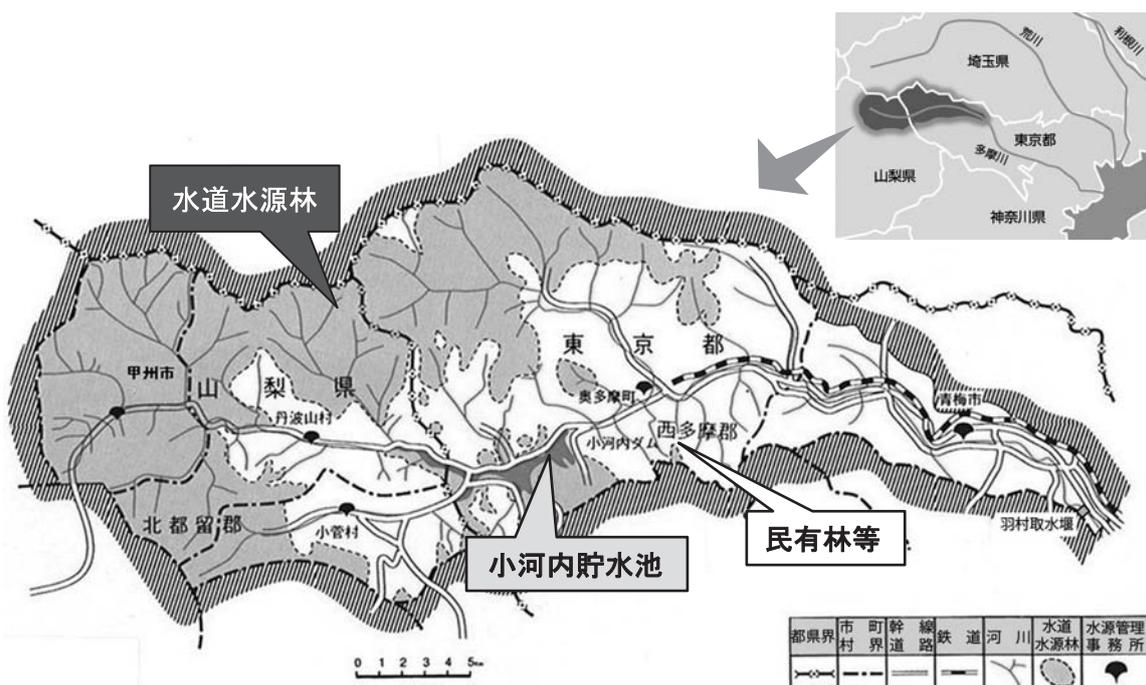


図2 東京都水道水源林の位置図

林が増加します(図3)。このような森林では、良好な土壌が形成されず、水を浄化し蓄えることができません。さらには、山林災害や土砂流出の拡大をもたらし、水質の悪化やダムの貯水機能の低下に悪影響を及ぼしかねない状況にあります。

そこで、当局では過去に培ってきた森林管理のノウハウを生かし、手入れ不足に陥った民有林を再生し、多くの方々に「良質な水を将来にわたって確保するためには良好な森づくりが欠かせない」ことを理解していただくため、平成14年にボランティアの方々と一緒に民有林を再生する「多摩川水源森林隊」を設立しました。

■多摩川水源森林隊の運営概要

多摩川水源森林隊(以下「森林隊」と表記)は、東京都水道局、水道局の監理団体、地元森林組合及びボランティアで構成される全国的にも例を見ない組織です。

運営資金は全て当局が負担し、活動の総括及び森林保全活動の活動地(民有林)の確保に係わる交渉等は当局職員が森林隊長として行っています。運営上の諸事務は当局の監理団体に委託し、2名で実施しています。ボランティアの方々は、森林隊の隊員として登録し、林業のプロである東京都森林組合の職員4名の技術的指導を受けながら、現場で作業を行います。

ボランティア隊員(以下「隊員」と表記)の登録者数は設立以来順調に増加し、現在約1,000名となっています。また、継続的に活動へ参加している隊員のうち希望する人には、事務の一部を担当する「事務局ボランティア」と、経験の浅い隊員への作業指導補助を行う「特別指導ボランティア」として登録してもらい、活動に積極的に係わる機会を設けています。現在、25名が「事務局ボランティア」に、14名が「特別指導ボランティア」に登録し、活躍しています。

■活動内容

1) 森林隊による民有林の再生

森林が持つ機能を発揮させるためには、生育状況に応じた適切な森林の管理が必要になります。そのため、森林内での作業を安全かつ円滑に行うための歩道

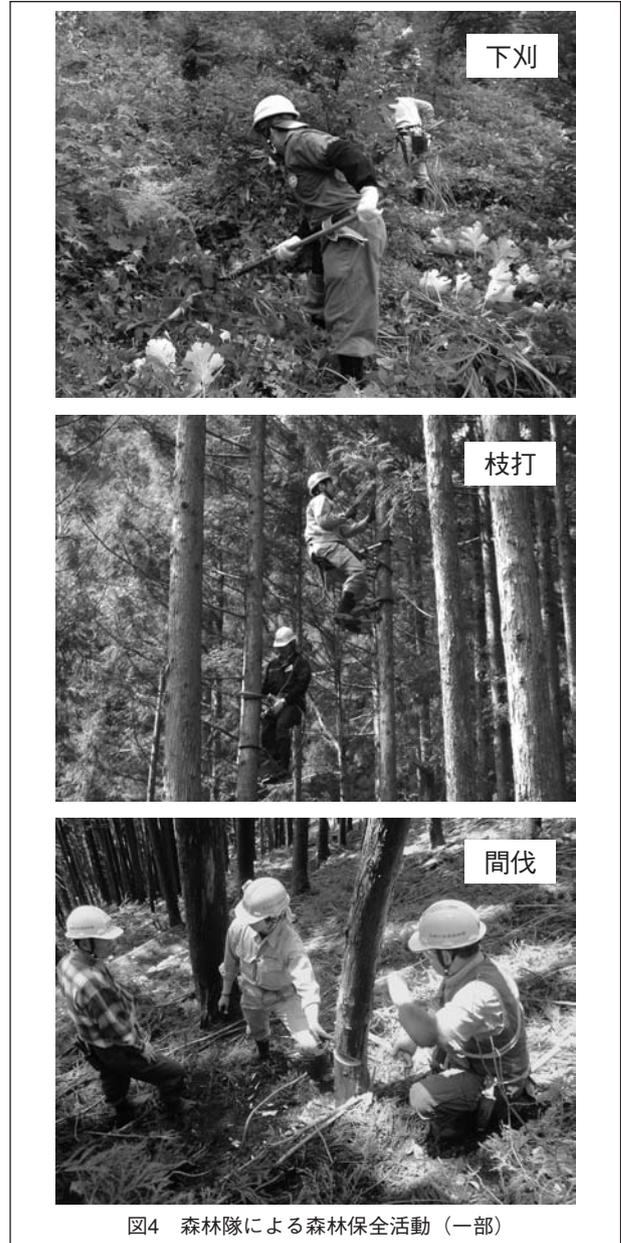


図4 森林隊による森林保全活動(一部)

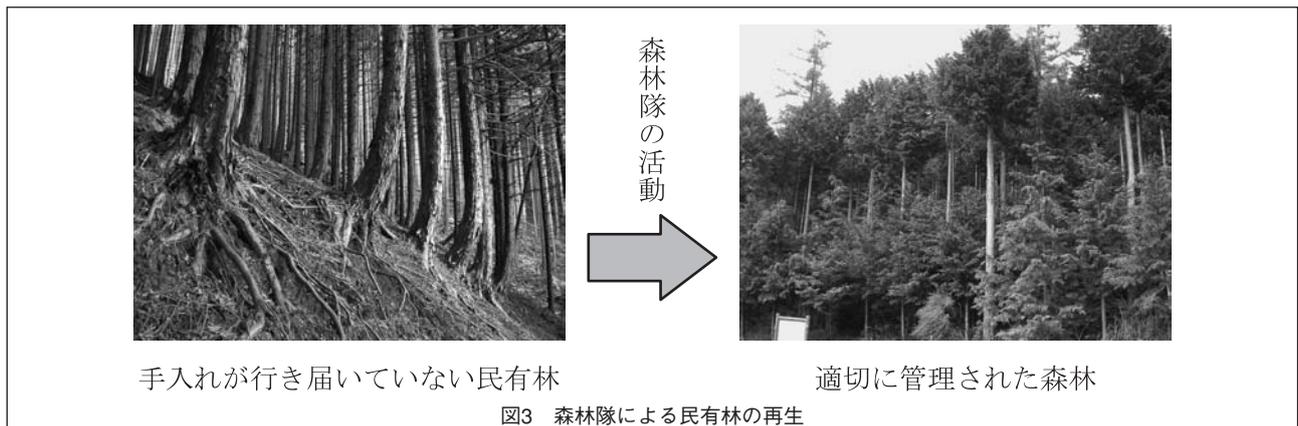




図5 木作業時に間伐材で作ったオリジナルコースター



図6 道具の手入れ(鎌とぎ)

整備や、植栽木の成長を助けるために草や灌木を刈り払う下刈、森林内に光を採り入れ良質な木材として育てるための枝打、植栽木の本数密度を調整するための間伐等の森林保全活動を行っています(図4)。活動日は毎週木、土、日曜日及び月末の水曜日であり、年間150回前後活動を実施しています。

また、雨天など悪天候の日には、作業フィールドへは行かず、事務所内で木作業や道具の手入れ等を行っています(図5、6)。

一回あたりの隊員最大受入人数は20名であり、隊員は事前に予約して活動に参加しています。

隊員は、各自昼食を持参し、東京の最西端奥多摩町にある森林隊事務所へ集合し、準備体操等を行ってから車両に分乗して現地に向かいます。森林隊事務所には、気持ち良く活動に参加してもらうため、更衣室や風呂、休憩室等を整備し、仲間との交流場所としての役割も果たしています(図7)。

活動を継続する隊員も多く、延べ活動回数400回超が3名、300回超が10名、200回超が20名、100回超が49名となっており、最も回数が多い隊員は通算502回参加しています。このように活動回数が多い隊員に対する表彰制度もあり、モチベーションの向上に寄与



図7 活動前後の交流風景



図8 平成24年度森林隊授賞式

しています(図8)。表彰者からは、「自分の生きがいになっている。」「今後も体の続く限り作業をしたい。」等の感想が寄せられ、民有林再生に対する並々ならぬ意欲が感じられます。

一方、ベテランから初心者まで、経験年数の違う隊員が共に活動しており、作業中は特にきめ細やかな安全管理が必要となります。現場での作業には、林業のプロである東京都森林組合による指導を取り入れるとともに、独自の安全管理基準を構築し、活動を実施しています。この基準に基づき作業前の注意事項の周知徹底はもとより、外部講師等も招きながら年3回の安全管理講習会を実施しています(図9)。安全管理は森林隊活動の生命線ともいえるものであり、将来にわたって徹底することが重要です。

また、森林隊活動のもう一つの生命線は、活動地を提供した森林所有者との信頼関係です。このため、急傾斜地など隊員での作業が難しい箇所は、森林組合の職員が補助作業するなどして、作業地全体を丁寧に仕上げることを徹底しています。



図9 安全管理講習会

2) 森林保全についての体験学習の実施

森林隊の活動をPRしながら、隊員登録を促すため、16歳以上の一般の方を公募して体験学習を年5回実施しており、森林組合職員が指導にあたり、安全に作業を体験していただいています。これまでの実施回数は延べ33回、参加者は665名にのぼり、参加者からは、「楽しく参加できた。」「初めての経験だった。」「普段当然に使っている水の価値を見直すことができた。」「日頃森林に関わりがない人でも、気軽に参加・体験することができ、森林について知るきっかけになった。」等、好評を得ています。

3) 学校教育との連携

学校教育と連携した取り組みも行っています。平成16年度には、森林隊の活動で間伐した木材を、活動地所有者の方の了解を得て、都内の中学校に提供しました。

学校では、「間伐材活用アイデアコンテスト」が開かれ、生徒自身が間伐材を利用したベンチを作製しました。生徒からは「間伐材はもっと細いものかと思ったけれど、太くて立派なものをたくさんいただいた。」と感激の声寄せられました(図10)。

その後も学校教育との交流は進み、平成17年度には、都内中学校で間伐材の玉切作業を体験してもらった取り組み等を行いました。

平成19年度からは都立高校において教科「奉仕」が必修となり、学校毎に様々な奉仕活動が開始されました。若年層へのPRと教育効果を狙い、森林隊では、平成19年度から高校生の奉仕活動受入先として活動の場を提供してきました。平成24年度は1校14名が参加し、夏休みの3日間を利用して、歩道整備や間伐を体験しました。

高校生は足袋や手斧、木槌たび ておの きづちといった道具を使い、初

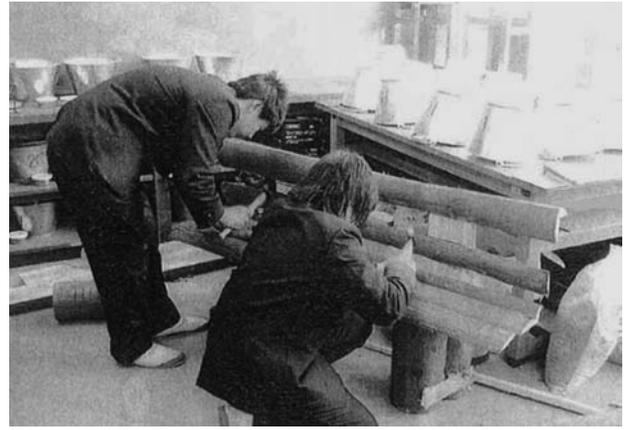


図10 間伐材アイデアコンテストで作成された木製ベンチ

めの山仕事に戸惑いながらも、森林組合の指導のもと、真剣に作業に取り組み汗を流しました。作業開始直後は傾斜地での作業を怖がっていた生徒も、「鎌で草を刈り、ノコギリを使って作業をしているうちに、楽しくなってきました。」「森林に対する思いが変わり、森林を大切にしようという気持ちが生まれました。」「山での仕事の目的、大切さ、過酷さを知り、苦勞して頑張った分達成感を味わいました。」「学校では決して習うことのない勉強をすることができました。」といった声が寄せられ、高い学習効果を上げることができました(図11)。



図11 高校生の奉仕体験活動(歩道整備)

■活動の効果

設立から10年が経過し、活動実績は延べ1,353回、16,497名の隊員によって、152箇所、178.42ha(登記簿面積)の民有林を緑豊かな森林へと再生してきました(表1)。

活動地を提供した多くの森林所有者からは、「立派で理想的な美しい山へと手入れをしていただき感謝し、感謝しています。時々、眺めに行きます。」「森林隊の仕

事はとても丁寧で、一生懸命作業をしていただいたおかげで山がとても綺麗になりました。」と感謝の声が寄せられています。

森林隊の作業完了箇所を見た他の森林所有者からも、「是非うちの山でも活動してほしい。」と依頼を受けるといった広がりが見られます。

一方、隊員からも、「森林隊は学校みたいなもので、とても楽しいです。作業上達の実感があり、この喜びが活動を長く続けられる秘訣です。」「自分の手を入れた森が綺麗になっていく姿を見ると感動します。何年も続けていくと、より実感できます。」等、活動に手ごたえと喜びを感じる声が届いており、森林隊のますますの発展が期待されます。

また、積極的な参加者の中には、森林隊の活動で身に付けた森林管理技術や指導力を他のボランティア組織で活かし活躍している状況も見受けられ、本活動が森林再生への勢いをさらに高めるきっかけにもなっています。

表1 森林隊の活動実績

項目	実績
ボランティア登録者数	993名
活動回数	1,353回
活動参加者数	延べ16,497名
施工面積	累積178.42ha

平成25年3月末現在

■更なる発展を目指して

これまで紹介してきたように、多摩川水源森林隊は、ボランティアや地元の方々をはじめ、多くの力によって支えられ発展してきました。これから先の活動展開に必要なことは、関係者一人ひとりが問題意識を持って活動に取り組み、互いに協調し感謝しあいながら続けていくことだと考えます。

設立から10周年を迎え、森林隊の活動は順調に推移してきましたが、毎回の応募件数が多く、キャンセル待ちを余儀なくする状況にありました。この状況を打破するため、平成24年度からは、隊員を指導する森林組合職員を増員するなど、体制を強化して、森づくりに興味を持つより多くの方が参加できるようにしました。

その結果、平成24年度の活動参加者総数は、昨年度比の約3割増となっています。

今後は若年層を含め隊員登録を促す体験学習やPR活動をさらに充実させていくとともに、世界一と誇れる森林ボランティアを目指して活動を続けていきます。

東京都水道局 多摩川水源森林隊